

研究者氏名：大嵯 暁美

調査・活動テーマ：他市町から学ぶ“美浜流ファミリー・サポート・センター事業のあり方”について

調査・活動の目的

ファミリー・サポート・センター事業*1（以下、ファミサポ）は、会員登録することで、子育てをサポートしてほしい人に対し、町民だれもが子育てを応援することができる制度である。子どもを預かる、預けることだけでなく、活動を通じて新たな交流が生まれ、地域における人間関係を構築していくこともでき、人情味あふれる美浜町に大変適した事業だと思う。美浜町らしいファミサポ「美浜流ファミサポ」が出来れば、子育て世代に魅力あるまち『子育てのまち美浜』として、アピールできるのではと、調査研究をしようと思った。

*1：ファミリー・サポート・センター事業とは、乳幼児や小学生等の児童の預かりの援助を受けることを希望する子育て中の労働者や主婦等（依頼会員）と当該援助を行うことを希望する人（提供会員）とが会員になり、地域において助け合いながら育児を行う相互援助活動事業である。提供会員になるには援助活動に必要な講習を受講する。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

■1年間の活動と得たこと（活動ごとに記入）

活動を始めるにあたり、協力者である都筑、石垣、江ノ上とその後参加する学生2名を含めた6名をメンバーに、「しらべて・みはま隊」を結成し、調査研究に臨んだ。

◆美浜町子育て支援課課長と懇談（6月）

ファミサポの概要と2013（平成25）年12月に町が実施した「子ども・子育てに関するニーズ調査」の結果報告書を参考に提供いただいた。

- ・アンケートの結果から、3世代同居が多い美浜町だが、ひとり親の増加など家族形態の変化や母親の就労状況を見て、地域で子育てを支援する仕組みが必要だと感じた。

◆美浜町での聞き取り調査の実施（7月・8月）

子育て世代、また提供会員になる年齢層の方、合わせて78名分の回答を得た。

- ・美浜町では2015年9月から新たにファミサポが始まるというのにもかかわらず、ファミサポ自体知らないという回答が多かった。
- ・依頼会員となる子育て世代は、利用したいという回答が多かったが、提供会員となる年齢層の方の回答は、提供会員に登録しないという答えが多かった。

◆知多半島の五市二町へのファミサポ実施内容に関するアンケート調査の実施（8月郵送）

運営方法、登録や活動の状況など31問の設問を設定し、調査を実施した。

- ・近郊の市町ということもあり、大きな相違点を見つけることはできなかった。
- ・「初めて提供会員と依頼会員が顔合わせをする事前打ち合わせに、アドバイザーが立ち会うか」の有無についてと、「ひとり親への利用支援」の有無が、市町により回答が分かれた。

◆「子育て交流カフェ」の開催（10月15日水野屋敷にて）

子育てに興味を持つ町民の方に参加してもらい、美浜町の出前講座によるファミサポの説明を聞いたのち、参加者とファミサポについて話し合った。

- ・登録の申込みや講習会をもっとしやすくしたら、また、もっと広報をして、会員登録を増やすようにとの意見が出た。
- ・近所に知った顔のおばさんが出来ていい事業だと期待する声もあった。

◆あま市のファミサポの視察（11月17日）

ファミサポをNPOに委託し運営しているあま市を視察し、担当の市職員、ファミサポのアドバイザー、NPOの理事長に話を聞いた。

- ・利用者に寄り添った事業を展開しているという

こと、NPOに委託しているものの行政側も、ほったらかしにせず、子育て支援課の職員の熱意や、連携が取れていることに、感心した。

- ・提供会員登録の養成講習の時間数について、9時間受講することになっていた。

◆ミーティング 13回

主にCラボ美浜にて行い、雑談を交えながら、楽しく活動が続けることができた。

■成果内容

◆広報・登録・養成講座の問題解決策

○町民、特に困っている子育て世代に、ファミサポがどんな事業なのかを知らせる。

- ・町報に毎号掲載、出前で説明会を開く、チラシを全戸に配布するなど積極的に行ってほしい。

○会員登録（依頼会員・提供会員）をやすくする。

- ・登録の窓口を布土地区の子育て支援センターだけでなく、野間分室や臨時的に出前で開設する。
- ・1か月に1回でも土曜日、日曜日に受付窓口を開く。
- ・各地区で設けられている老人サロン、おしゃべりサロンなども、活動場所として登録できるようにする。

○提供会員の養成講座を受けやすくする。

- ・平日のみでなく土曜日、日曜日にも開催すること
- ・他団体が行っている日本赤十字社の救急講座や子育てボランティア主催の講座等を受講することで養成講座の項目が免除されるような工夫が必要である。

◆美浜流ファミリー・サポート・センター事業とは・・・

○子供が好きで、人のために何かしたいと思って登録する「提供会員」に注目！

登録時の養成講座の項目・時間数を増やし、提供会員を子育て支援に必要な基本的な知識・

技術を習得した保育者に育成し、ファミサポ事業を充実させ、さらに今後ニーズが増えるであろう「子育て支援」の一端を担うことが出来ないだろうかと考える。

提供会員養成講座の充実



ファミサポ事業の充実



子育て応援団結成！？

厚生労働省が通知する提供会員養成講習の項目・時間数は9項目24時間。必要としている専門講師（心理士や看護師）による講座などは、大学の科目等履修生・聴講生制度を利用するなどして、専門的な知識を習得させる。

このように提供会員の資質を高めることで、ファミサポは安心安全な活動となることはもちろん、ファミサポのスムーズな運営のため、提供会員が主体的に、交流会の開催、子育ての情報共有、広報活動などを行っていただけるのではないか。

さらに、主体的に活動することで、子育て支援において社会的役割をみだし、その他の美浜町の子育て支援事業、例えば放課後児童クラブの指導員補助として勤務したり、託児、ベビーシッターなどの団体を自ら結成したりするなど、提供会員を保育サービスのできる人材に育てることは、美浜町の子育て支援の多様性に繋がっていくのではと思う。

◆地域における子育て支援とは

今回の調査・研究をおえて、私たちは、地域の子育て支援について考えてみた。

◎行政・人づくり・つながりの子育て支援のネットワーク

行政によるファミサポ事業の充実や自主的な子育てボランティア活動を支援し促進することで、住民が子育て支援に参画できる機会が増え、その活動を支える人材を育て、団体同士の連携など人づくり、人の輪づくりができる。そして、

この地域全体で子どもを育てるという意識のもとで、子育て世代とのつながりを深め支援するなかで、新たな問題や課題について行政と連携し解決していく。

このような子育て支援のネットワークが、地域に根付いていくことが、必要だと考える。

優れた効果・成果があがった点

- ◆聞き取り調査や「子育て交流カフェ」の開催等で、ファミサポについて広報することができた。
- ◆市民研究員で調査をすることで、ファミサポをはじめ子育て支援について意識が深まった。
- ◆美浜町女性議会での一般質問
2月3日に美浜町制60周年記念事業のひとつ「美浜町女性議会」（模擬議会）で議員として、

「ファミサポ」と、今回の調査がきっかけで興味をもった「病児保育」について質問し、調査で得たことを意見することができた。

◆「考えよう～子育て支援交流カフェ」を開催

3月5日、美浜町議（10名参加）と調査に協力いただいた町民の方々と市民研究員の報告を兼ねて、子育て支援について意見交換を行った。

委嘱期間終了後の今後の展望

今回、市民研究員として調査するなかで、子育てボランティアの方や子育て中の若い方と知り合い話を聞き、子育て支援の大切さを改めて感じ、自分自身も提供会員に登録した。今後も会員としてファミサポに関わり、子育て支援が出来たらよいと思う。